

# 比べ読みを通して主題を深める授業 「海のいのち」(六年)「比べ読み」の実践

大阪府大阪市立内代小学校  
村川 圭子

## はじめに

小学校学習指導要領解説の中に「読む活動を広げるためには、目的に応じて、音読や黙読、速読や比べ読みなど、さまざまな読み方を適宜用いることができるようにすることが大切である。」と書かれている。

その中の「比べ読み」の実践について述べてみたい。

まず、比べ読むために、どんな作品を教材として選ぶのかであるが、例として、次のようなものが考えられる。

- ・ 同じ作者で題材(話題)の違う作品
- ・ 違う作者で題材が同じような作品
- ・ 違う文種で題材が同じような作品などである。

さて、本教材「海のいのち」(東京書籍)は、作家の立松和幸の作品で、「人と自然との共生・一体化」について訴えている。

ところで、同じ立松氏の作品に、「山のいのち」(ポプラ社、一九九〇年刊)があり、この作品も自然と人間との共生を主題にしている。取りあげている海と山の自然や生き物に違いはあるものの、作者の訴えは共通している。

そこで、「山のいのち」を副教材とし、表現の細部に着目しながら類似点や相違点を比べ読みことにより、主題に対する考えを深めていくことができると考えた。

## 一 授業のポイント

比べ読みを通して物語文の確かな読み力を育てる本授業実践のポイントを次のように考えた。

- (一) 比べ読みの視点を明らかにする。
- (二) 二教材「主教材『海のいのち』と副教材『山のいのち』」を比べ読み、作品の読みを深める。

## 二 授業の実際

### 単元目標

○ 主題について考えを深め、人物の生き方や考え方について興味・関心をもつ。

・ 表現の細部に着目し、比べ読みを通して人物の心情を的確に読み取ることができる。  
・ 主題について考えたことを理由や根拠を明らかにして話したり書いたりすることができると考えた。

### (一) 比べ読みの視点を明らかにする。

比べ読みの視点を明らかにするために、下表のような「比べ読みガイドカード」を作成した。

このカードに、「比べ読みのポイント」を示したことで、二教材「海のいのち」と「山

比べ読みのポイント		比べ読みガイドカード ☆いのちの何をどのように比べようだろうか。	比べる言葉 ○海と山の「めぐみ」「生き方」「いのち」
比べる視点① 比べる視点② 比べる視点③	あらすじ 人物の人物柄 書きぶり		
比べ読む方法 ○情景描写や心情描写に着目して、人物の心、考え、生き方を読み取る。			

のいのち」の比べ読みの視点を理解することができた。

また、比べ読みをするにあたっては、「比べる言葉」や「比べる方法」を話し合い、何（人物の心情や生き方・考え方）を、どのように（情景描写や心情描写に着目して）読み取っていくのかということ明らかにした。

（二）二教材『主教材『海のいのち』と副教材『山のいのち』を比べ読み、作品の読みを深める。

情景描写や心情描写に着目して読み取り、それぞれに登場する人物の生き方や考え方が似ている所や違うところを比べながら交流した。

- C1 「海のめぐみ」について、おとうは、自分の実力ではなく海から与えられているあたりまえのものだと思っています。
- C2 そして、授かった物だから大切にしなければならぬと思っています。
- C3 「山のいのち」にも、「めぐみ」に人物が感謝していることが分かることがあります。それは、「山」にいわば食へるものはいくらでもある。食へるのは小さいのちだ。虫を魚が食へて、その魚をイタチや人間が食へる」ということです。
- C4 山のおかげで生きていることを言いたかったのだと思います。

このように、人物像を通して、海あるいは山の「めぐみ、いのち」について類似点を読み取ることができた。と同時に、作者立松和平の自然に対する思いに、より広くより深く迫ることができた。

比べ読んだ「海のいのち」と「山のいのち」を関連づけながら主題について、深まった自分の考えを次のように書いた。



○私は、立松さんの言いたいことは「自然を大切に」ということだと思っています。

最近、山では木が切り倒され、海では魚をとりほうだい。そのため、自然がなくなっていると思います。自然は一つ一つが「いのち」で、一つの「いのち」が消えたら全てがなくなり、人工的につくりだせないもの。つまり、かけがえのないものである。と立松さんは言っています。そして、これ以上自然をなくしてはいけません。自然をいつくしみ、大切にしたいと読者に伝えたいのだと思います。

○立松さんは、「自然」「めぐみ」を大切にしようとして、この二つの物語を通して訴えているのだと思います。

私たち人間は都合のいいように、木を切り倒し山をゴルフ場にしたり、海の魚をとりにぎってしまったらして、自然をはかれています。

私は「山と海のいのち」で、どんなに小さないのちでも大切なめぐみだということを知りました。そして、人間は他の生き物のめぐみにもなれず生きていくことも知りませんでした。立松さんから自然のめぐみに感謝する気持ちを持たなければならぬことを教えられました。

言葉に着目して二教材の比べ読みをするこ  
とで、共通する主題を読み取ることができた。  
と同時に、「海のいのち」と「山のいのち」  
を関連づけ、「自然」に向き合う人間の生き  
方について、立松氏の強い思いをとらえるこ  
とができた。さらに、児童は身近にある問題  
にも目を向け、自然に対する自分の思いや考  
えも書くことができた。

### おわりに

本実践を通して、児童は比べ読みをするこ  
とで、物語文を読むことの楽しさを味わうと  
ともに、二教材に共通する主題をとらえ、考  
えを深めることができた。

むらかわ けいこ 大阪府小学校教育研究会国語部  
の研究委員。いろいろな研究会で、授業や発表の機  
会を得、情熱をもって国語教育に力を注いでいます。  
現任校では、表現力の育成を全校の研究テーマにし  
て研究活動に取り組んでいます。